

授業科目名	健康の科学	教員名	村上 昇	免許・資格との関係	高等学校教諭(英語)	必修
					中学校教諭(英語)	必修
					小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
					保育士	必修
					こども音楽療育士	
科目番号	KEN101	配当年次	1 年次後期	卒業要件	中高英語コース	
授業形態					小幼コース	必修
単位数	1 単位				幼保コース	必修
科目	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）（幼稚園及び小学校）					
各科目に含める必要事項						
科目						
施行規則に定める科目区分						
科目						
系列						
一般目標	脳と体の成長の仕組みや、成長過程で生じる諸問題を理解する。また、ストレスや環境変化に対する体の恒常性の維持機構、規則的な生活を営むための生体リズム、エネルギーバランスを保つための摂食と運動の中枢機構と制御機構、などを学ぶことで、健全な食生活を考え、健康を保つための科学的知識を得る。					
到達目標	体や脳の仕組みを理解し、健康や食生活に関する科学的知識を取得する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、学科のディプロマポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている、6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	健康と科学では、「科学的根拠に基づき、体や脳の仕組みを理解する」。また、急速に進歩する分子生物学的、あるいは脳科学的な知識を修得することで、将来的な子供の教育への応用展開を考える。例えば、サイレントシナプスを活性化することで記憶力の向上や推理力の向上、エピジェネティクスを知ることで、遺伝的要因に依らない教育効果の向上、感情や心を操る分子を知ることで、健全な心の育成などに応用できる。					
履修条件・注意事項	内容が時間の割に豊富なため、必ず復習を行う事。また、授業中に大事な個所を指摘するので、必ずメモを取っておくこと。試験問題は多くの知識を問うので、万遍なく理解しておくこと。わからない部分はそのままにせず、オフィスアワーで質問すること。					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の目標・テーマ、進め方、内容、評価等についての確認</li> <li>・現代社会の健康に関する統計、問題点、子供の健康の統計など、</li> </ul> <p>第2回：こども成長のメカニズムを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を構成する各器官と役割</li> <li>・体の成長と脳の成長</li> </ul> <p>第3回：健全な食生活を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食と運動の中枢機構と制御機構</li> <li>・生体時計と生体リズム</li> </ul> <p>第4回：脳を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロードマンの脳地図とペンフィールドの脳地図</li> <li>・感情、冒険心、好奇心、および心をあやつる分子</li> <li>・記憶と睡眠のメカニズム</li> </ul> <p>第5回：環境と体の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腸内細菌と健康の関係</li> </ul>					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境で変化する遺伝子、エピジェネティクス</li> </ul> <p>第6回：体の恒常性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスに対する恒常性維持機構</li> <li>・環境の変化に対する恒常性維持機構</li> <li>・血液の恒常性維持機構</li> </ul> <p>第7回：こどもの教育で問題になる健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神的諸問題、集団欲と反抗期、</li> <li>・性成熟</li> </ul> <p>第8回：感染に対する防御機構</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血液と免疫</li> <li>・まとめ</li> </ul> <p>定期試験：試験期間中に実施</p>
学生に対する評価	<p>定期試験で評価する。60%以上を合格とする。</p> <p>評価は学生便覧を参照 (尚、定期試験受験可能な授業出席数が無ければ受験できない)</p>
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週2時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：授業の最後に次回学習の内容と課題を提示するので、それに応じていろいろなメディア(文献、テレビ、新聞、ネット等)から情報を収集し、小テストで記述できるようにしておく。</li> </ul>
教材にかかわる情報	<p>テキスト：特になし。毎回自作のスライドを用いて講義を行う。</p> <p>参考書：特になし</p> <p>参考資料等：</p>
担当者からのメッセージ	
オフィスアワー	<p>授業の前後の時間</p> <p>Email: nmurakami@edu.miyazaki-mic.ac.jp</p>
備考	